

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2370301570
法人名	旭日産業株式会社
事業所名	グループホーム あさひ名北
訪問調査日	平成20年7月18日
評価確定日	平成20年8月20日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2370301570
法人名	旭日産業株式会社
事業所名	グループホーム あさひ名北
所在地	名古屋市北区安井一丁目26-14 (電話) 052-910-5438

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年8月20日

【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年7月16日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 9人, 非常勤 13人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	75 歳	最高	97 歳
協力医療機関名	医療法人あちは 澤野医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅に囲まれており近隣の人々と交流しやすい環境にある。入居者と職員が地域の行事に積極的に参加し、町内会の一員として取り組んでいる。独居老人が多い地区のため、散歩時にお年寄りに気にとめてほしいと民生委員より依頼があり、地域との協働を大切にしている。ボランティアによる演奏会などには、地域の人も参加して一緒に楽しんでいる。また、散歩時に声をかけたのがきっかけになり近所の子どもが遊びに来るようになった。毎日、午後の体操の後「今日は何の日」として過去の出来事や人物、当日の新聞を話題にして会話を深めて和やかなひと時を過ごしている。職員の問いかけに入居者が昔を思い出したり懐かしがってぼつりぼつりと話す姿が見られた。職員は明るく気さくでチームワークもよい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については全体会議で話し合い、改善課題に取り組んだ。課題となった2項目は改善が進んでいる。介護計画では見直しはしていたが記録の確認ができなかったものが、今回見直しをした記録の確認ができた。災害対策では避難訓練は行っていたが入居者が含まれていなかったため、今回は入居者と一緒に避難訓練を行った。また、救急救命講習会は地域の人も参加して行った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長が評価の意義や狙いについて全体会議で説明をし、自己評価は全職員が取り組んだ。職員からは質問内容が難しかったとの声が聞かれたが、各職員から提出された自己評価は丁寧にまとめられており、真剣に取り組んだ様子が伺えた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議では行事、入居者の様子などの報告があり、外部評価の結果も報告された。ホームの取り組みについて活発に意見が出されている。会議で散歩に関して集団ではかわいそうという意見があったことから、なるべく個別や小グループで散歩に出かけるようにした。メンバーの自治会長の協力でホームの催し物のお知らせを町内に回覧して多くの住民の参加を得ている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会はないが、電話や面会の際に話しかけ意見を聞いている。行事にもなるべく参加してもらえよう働きかけて話ができる機会をつくるよう努めている。外部評価の家族アンケートも活用している。入居者の身元引受人となっているNPO団体の意見も聞いている。意見、苦情などあれば全体会議やカンファレンスで話し合っ対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、町内会の清掃やお祭り、花見などの行事に参加している。地域の桜ウォーキングに参加した時は町内会の一員としてくじ作りの役になり入居者と一緒に準備した。ボランティアによるフルーツ演奏会や民謡、落語会などでは地域の人も一緒に楽しんでいる。時には近所の子どもたちが遊びに来て入居者とトランプをしたりする。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちのグループホームあさひ名北では」、と題し行動指針を具体的に示した文章を理念としている。その中で「地域の皆さんとの連携を図り開放的な施設環境を創ります」としており、地域との交流を積極的に進めていく理念となっている。様々な取り組みの中で地域との関わりを深めており、地域密着型サービスの実現に向けて努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目につきやすいようホーム内の数箇所に貼ってあり、月1回の全体会議では理念に沿った話し合いが行われている。新人職員にはホーム長が説明しきちんと身につけるよう話している。職員は常に理念を意識しながら業務に当たっており、ホームの運営や日々のケアが理念に沿ったものになるよう話し合い、実践にむけて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内会の清掃やお祭り、花見などの行事に参加している。地域の桜ウォーキングに参加した時は、町内会の一員としてくじ作りの役になり入居者と一緒に準備した。ボランティアによるフルーツ演奏会や民謡、落語会などでは地域の人と一緒に楽しんでいる。時には近所のこどもたちが遊びに来て入居者とトランプをしたりする。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は評価の意義やねらいについて全体会議で説明して職員の理解を図り、自己評価は全職員が取り組んだ。前回の評価結果については全体会議で話し合い、改善課題に取り組んだ。災害対策では職員だけの避難訓練を入居者と一緒に行うよう改善した。評価結果は廊下に掲示しいつでも見ることができるようにし、よりよいサービスの提供に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では行事、入居者の様子などの報告があり、外部評価の結果も報告された。ホームの取り組みについて活発に意見が出されている。会議で散歩に関して集団ではかわいそうという意見があったことから、なるべく個別や小グループで散歩に出かけるようにした。メンバーの自治会長の協力でホームの催し物のお知らせを町内に回覧して多くの住民の参加を得ている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の結果を区の担当窓口を持参して報告している。市からの依頼でパンフレットを送ったり問い合わせに文書で回答している。区へ行き来したり情報交換など行う機会はつくっていないが、保護係とは情報交換を行っている。</p>		<p>自己評価の中で、現場の実情や考え方を伝える機会を作りたい、としていることから、今後に期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回季節の便りを郵送している。変化があった時はすぐに電話で報告するほか、日々の様子や通院、美容院、物品購入など電話でこまめに報告しており、行事への参加の呼びかけも行っている。面会時や行事参加の際にも報告しており、家族に何でも話してもらえよう信頼関係づくりに努めている。金銭の報告は月1度行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はないが、電話や面会の際に話しかけ意見を聞いている。行事にもなるべく参加してもらえよう働きかけて話ができる機会をつくるよう努めている。外部評価の家族アンケートも活用している。入居者の身元引受人となっているNPO団体の意見も聞いている。意見、苦情などあれば全体会議やカンファレンスで話し合っ対応している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内、ユニット間の異動はあるが最小限に抑えている。ユニット合同で行事を行い、入居者がどの職員とも顔馴染みになれるようにしている。職員同士の挨拶、会話を心がけ懇親会を行うなど職員のストレス軽減に努めている。新しい職員は丁寧で紹介し、ベテラン職員と組んで入居者のダメージを少なくなるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してホーム長が説明を行い、その後はベテラン職員が現場で実地指導をする。外部の研修にはパート職員を含め2名ずつ交代で参加し、参加した職員はレポートを作成し全体会議で報告している。ホーム長は全体会議の中で食中毒対策などその時々課題について指導している。ホーム長、ユニットリーダーが実際のケアの中で具体的な指導やアドバイスをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加入しており、研修会に参加したり情報交換を行っている。区内の同業者と積極的に交流を行っている。他ホームの行事に入居者と一緒に参加するなど相互訪問をしたり、ホーム長、職員が交流、情報交換、相談など行いサービスの質の向上に役立てている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居をすることができ、10日間の体験で馴染んでから入居するケースもある。見学に訪れた際には本人と入居者が一緒に過ごす時間を作り雰囲気に馴染んでもらったり、本人が訪問できない場合には職員が面接に出かけ顔馴染みになれるように努めている。面接時に不安に思うことを聞いて気をつけたり入居後は頻りに声かけをして親しくもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に役割を持ってもらったり、掃除や食事の片付け、洗濯物たたみなどできることを一緒に行っている。作業の中やレクリエーションの中で教えてもらうこともある。食後の団欒やゆっくりできる時には、職員は入居者から昔のこと、苦労したこと、こどものころの話などを聞かせてもらっている。夜勤の時には労わりの言葉をかけられることもあり、職員は相互に助け合い一緒に生活しているという気持ちでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日ごろより話をよく聞くようにしており、その中で本人の思いや希望を聞き取るよう心がけている。あまり話をしない場合は本人の行動、表情、態度を見て読み取るようにしている。また、家族から話を聞いたり申し送り時やカンファレンスで話し合って希望、意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員を初めとし、その他職員、ホーム長、ケアマネジャーで月1回カンファレンスを行っている。家族から入居者について、意見やアイデアなどを聞き参考にしている。チェック表をもとに、問題項目から2~3選び、この項目が改善できたら次の項目にいくようにしている。最終的にケアマネジャーが介護計画を完成させ、入居者や家族に確認を取っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化や状況に応じて、入居者や家族、職員を含め臨機応変に介護計画を見直し変更している。介護計画の変更時には議事録や申し送りノート、そして口頭で伝え情報の共有を図っている。家族にはホーム長が電話や訪問時に伝えている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院、送迎の支援をしている。お試し入居の実施もしている。医療連携体制加算でホームドクターの週1回の往診、または必要に応じての往診がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回ホームドクターの往診がある。急変、状態悪化時はすぐに往診依頼ができる。通院支援もしており、受診前には受診理由を説明し家族の了解を得ている。受診後も家族に報告を必ずしている。受診結果は申し送りノートに記入している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員に看護師が複数名いて看取りの経験もある。ホームとして「重度化した場合の対応に係る指針」をだしている。ホームドクターより家族への説明を行っており、吸引器（痰）吸入器（喘息）在宅酸素を利用することもある。医師や看護師と連携し、本人に負担の少ない方法を提案したり、職員は本人の気持ちが暗く沈まないように精神面のケアを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	オムツ交換やトイレ誘導などは他の入居者に分からないよう言葉かけに注意を払い、小さい声や自尊心を傷つけないよう、状況に応じてトーンを変えるなど配慮している。「申し送り」の際も入居者に聞こえないよう、イニシャルで報告しており、個人情報の取り扱いに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事の時間は本人のペースに合わせている。個々の希望で美容院に行ったり喫茶店に行くなど、できる限り本人の希望に沿うよう対応している。毎日、希望者が集まって体操やレクリエーションを行うが、居間でテレビを観る人もいれば、昼寝をしたり、趣味（読書、繻いもの、三味線、ハーモニカなど）を楽しむ人など、思い思いに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入、準備(野菜切り)、調理、味見、盛り付け、ランチョンマット敷き、お茶つぎ、片付けなどそれぞれの過程を入居者は職員と共に行っている。食事は入居者と職員が一緒にし、食事時には色々な音楽を流している。(童謡、シャンソン、カンツオーネ、クラシック、ナツメロなど)おやつにはお萩、お寿司、お好み焼き、ホットケーキ、サンドイッチなども入居者と一緒に作る。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度の入居者が安心して入浴できるリフト浴がある。湯は一人ひとり入れ替え、本人の意向に沿った入浴支援となっている。水曜日のみ入浴がお休みである。ドクターの指示で体調の悪い入居者には、半身浴や短時間入浴などの配慮も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、掃除機かけ、菜園の草むしり、プランターの花の手入れなど、できることは入居者に行っていたいでいる。年2回の日帰りと1泊旅行に出かけたり、居酒屋の方の協力を得て、毎月のイベントとして「居酒屋」を楽しんでいる。風船バレー、トランプ、カラオケ、お手玉、おはじきなどのレクリエーションの他にも音楽療法や回想法、対話の充実、散歩など楽しみごとや気晴らしの支援に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、公園、喫茶店、買い物、外食など歩いて、または車で、入居者が均等に外出できるように支援している。天気の良い日は1日1回は外に出るよう心がけている。年2回の1泊旅行と日帰り旅行に加え、家族との話し合いでの外泊も取り入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はない。職員の目の届く時は玄関もオープンにしている。ただし、体調の管理が必要な方もおり、医師の指示で入居者一人での外出を避けるよう指示が出ているため、早朝など職員の目が届きにくい時間には、玄関とリビングの入り口は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と一緒に年1回防災訓練を実施している。自治会、ホームドクターとの連絡をホームから行うように現在進行中である。救急救命訓練では医師、自治会長を含む地域の方々も参加して、消防署職員からAEDの使用実習訓練も受けた。痰が詰まり吸引中なるも呼吸停止となった入居者に、職員が心臓マッサージと人工呼吸を施行し、呼吸改善したケースもあり、救急救命の研修が役立った。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分補給はチェック表を活用し、毎日15時に確認し、日々の状態把握に努めている。食事は一人ひとりに適した量を把握し、栄養バランスを考えたメニューで提供している。毎日16時からの運動後と入浴後には水分補給を必ず行っている。体重測定は月1回行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車の往来も少ない住宅地で周りに高い建物も無く、採光も十分に窓からは隣地の緑も見える。1日に3回全ての窓など開けて換気している。クッションのある床材、臭いのつかないクロスが使用され、こまめな掃除も行き届いている。ミニトマト、キュウリ、シソの収穫できる菜園もある。月ごとの手作りカレンダーが掲示され、入居者が水やりして育てた立派なカサブランカ1輪が飾られていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レースカーテンとエアコンは備え付けである。本人にとって馴染みのあるものを使って、居心地良く過ごせるように、家具などの配置は本人、家族と相談して使い勝手の良くなるように心がけている。タンス、テレビ、時計、写真、本、趣味のハーモニカ、三味線、仏壇、位牌などが置かれている。畳を使用したり、ご自分の作品やお花を飾っている入居者もいる。季節の変わり目ごとに衣替えをし、整理整頓に努めている。居室の室温は26 ~ 28 になるよう事務室で管理している。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。